

審議会等会議録

審議会等の名称	平成27年度山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画評価委員会
開催日時	平成27年6月2日（火曜日）10:00～12:00
開催場所	山口総合支所 第10・11会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	草平委員、高野委員、坂本委員、長谷川委員、澤村委員、吉田委員、清水委員、佐々木委員、緑委員、堅田委員、林委員、斉藤委員
欠席者	内田委員
事務局	<p>【市健康福祉部】 江藤部長、中川次長、鈴木課長、網田課長、今井課長、杉山課長、田村主幹、塩見副主幹、山本主査</p> <p>【市社会福祉協議会】 原会長、野村支所長、御園生支所長、角野次長、時乗出張所長、田辺出張所長、河村出張所長、松村主幹、田中主幹、吉武主査、磯部主任、梅木主事</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 山口市健康福祉部長あいさつ 2 山口市社会福祉協議会会長あいさつ 3 自己紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成26年度実施状況及び平成27年度実施予定について <ol style="list-style-type: none"> ①基本目標1「地域福祉を推進するひとづくり」 ②基本目標2「安全に安心して生活できる地域の輪づくり」 ③基本目標3「利用しやすい福祉サービスの仕組みづくり」 (2) その他
内容	<p>次第に基づき、次のとおり進められた。</p> <p>【事務局】 ただいまから「平成27年度 山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画 評価委員会」を開会させていただきます。 本日は、御多用中にもかかわらず、本評価委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。 私は、本日の進行を務めさせていただきます、市健康福祉部社会課長の杉山と申します。どうぞよろしく願いいたします。 これから先は、失礼ですが、着席のうえ進行させていただきます。 まず初めに、新委員さんの御紹介をさせていただきます。 山口市自治会連合会の会長をされておられました小泉委員さんが去る4月8日にお亡くなりになりました。それで先月5月21日に新会長に御就任されました清水委員さんでございます。 なお、委嘱状をお席に配布させていただき交付に代えさせていただきますことを御了承ください。 さて、御案内のとおり本評価委員会は、平成26年度の実施状況並びに平成</p>

<p>1 健康福祉部長あいさつ</p>	<p>27年度の実施予定等につきまして、皆様方に御協議賜りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、初めに、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>次第の裏面の「配布資料一覧」を御覧ください。</p> <p>あらかじめ送付いたしましたものを含めまして、「席次表」が1枚、「会議次第」などの資料が1式、「資料1」から「資料4」までございます。皆様、よろしいでしょうか。</p> <p>また、「配布資料一覧」の「次第等」の中にありますように、市地域福祉活動計画評価委員会設置要綱をお配りしておりますが、その附則部分へ、この要綱は、平成27年4月1日から施行する。とあります。これはですね、第7条のところ、「山口市社会福祉協議会本部地域福祉推進担当」となっていたものが、この度社会福祉協議会の組織改編が行われまして、「山口市社会福祉協議会本所地域福祉課」と名称変更が行われたことによるものですので申し添えておきます。</p> <p>なお、評価委員会における審議状況等につきましては、市及び市社協のホームページ上において市民の皆様に対して公開させていただいております。</p> <p>つきましては、例年によりまして、本日の会議内容を記録させていただき、委員の皆様方のお名前や所属等記載されました名簿、評価委員会の会議録等につきましても、公開とさせていただきたいと思っておりますが、御異議ございませんでしょうか。</p> <p><「異議なし」と呼ぶ者あり></p> <p>では、よろしいものとさせていただきます。ありがとうございます。それでは、本日御審議いただく事項は、会議次第のとおりでございます。</p> <p>会議の終了は、正午を予定しておりますので、円滑な会議運営となりますよう、御協力をお願いいたします。</p> <p>【事務局】</p> <p>それでは、次第に従いまして進行いたします。</p> <p>はじめに、「次第の1 山口市健康福祉部長あいさつ」を、江藤部長が申し上げます。</p> <p>【江藤部長】</p> <p>皆様、おはようございます。</p> <p>健康福祉部長の江藤でございます。</p> <p>開会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、平成27年度市地域福祉計画・市地域福祉活動計画評価委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、この度、新たに評価委員に御就任いただいた清水委員さんにつきましては、福祉計画の着実な実行と地域福祉の更なる推進のため御協力を賜りたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
---------------------	---

<p>2 市社会福祉協議会長あいさつ</p>	<p>さて、本年は、新市発足10年を迎える節目の年でございます、これまでの実績などをしっかりと踏まえながら、多くの皆様に、「山口に住んでみたい、住み続けたい」と言っていただけるような「定住実現都市」を目指し、全力で取り組むことといたしております。そうした取り組みの中で「雇用・産業振興」「子育て・教育」「防災」「健康長寿」分野で施策を進めていくことで、市民の皆様の暮らしにおける安心の実現につとめてまいりますので、今後とも、皆様の御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>今年度は、現計画の2年目でございます。本日は昨年度の事業実績や、実施状況及び今後の実施予定などを説明させていただきますと共に委員の皆様の方面からの御意見等いただきまして、今後の事業推進に反映して参りたいと考えておりますので、忌憚のない御提言等賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>以上簡単ではございますが、開会にあつたての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>【事務局】</p> <p>続きまして、「次第の2 山口市社会福祉協議会会長あいさつ」を、原会長が申し上げます。</p> <p>【原会長】</p> <p>皆様、おはようございます。御紹介いただきました市社会福祉協議会の原でございます。</p> <p>開会にあたりまして、一言、御挨拶を申し上げます。平素皆様には山口市社会福祉協議会の事業推進に対しまして、格別な御理解と御協力を賜っております。まず、お礼を申し上げます。</p> <p>また、本日は大変お忙しい中を、御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>さて本日は、評価委員会は江藤部長からも御案内ございましたように、平成25年度に策定いたしました山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画の昨年度平成26年度の取り組み及び、進捗状況。そして今年度の取組みについて御説明させていただきます。限られた時間でございますけれども、評価委員会の皆様には地域福祉推進活動のリーダーとして豊富な知識と経験に基づかれた目線でのご意見を頂きたいというふうに思います。どうか、忌憚のない御意見を頂きますようお願い申し上げます。簡単でございますが御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
<p>3 自己紹介</p>	<p>【事務局】</p> <p>続きまして、次第の3、自己紹介でございます。</p> <p>新たに、清水委員さんが加わられたということもございますので、所属団体名とお名前について、自己紹介をお願いできたらと存じます。</p> <p>次第の資料3ページに委員名簿を掲載しておりますので御覧ください。ご覧ください。なお、本日は内田委員さんが欠席されておられます。</p>

それでは、名簿順に、草平委員からお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔委員、役職員による自己紹介〕

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、本日、出席いたしております事務局員でございます。

同じく事務局名簿を掲載いたしておりますので御覧ください。

時間の都合もございますので、これをもって御紹介に代えさせていただきますが、本日は所用で山口市の有田理事と社会福祉協議会の福原出張所長が欠席となっております。続きまして、「次第の4 議事」でございます。

議事の進行につきましては、評価委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づきまして、草平会長にお願いしたいと思いますので、草平会長さんよろしくお願いたします。

【草平会長】

御紹介に預かりました草平でございます。先ほど自己紹介いたしました、県立大学の社会福祉学部で地域福祉を担当しております。この山口市の地域福祉計画並びに活動計画の評価ということでございまして皆様方にお集まりいただきました。この地域福祉の推進というのは社会福祉法のほうに記載されておいて、非常に大きな課題になっております。そういう状況ではございますけど、この社会福祉法の理念の中に個人の尊厳の保持というところが非常に大切にするとおっしゃって、実は昨年初めて障害者施設の虐待の事例というのをニュースで見まして、実際は先週の末からテレビに登場したということで、こういうことがまだあるのかということで、少しがっかりしたと、非常に驚きを感じたところでございます。その内容も、施設の名前ははっきりしませんでしたけど山口県内の事案だったということが非常にショックでした。実際後で調べてみますとネット社会でするのでこの施設か分かるわけございまして、私もよく知っている施設で1985年に出来た施設で、ちょうどその当時福祉事務所の障害者担当ということで、その施設が出来たという、その親の希望で出来たという凄く熱い思いで出来た施設だったのに、どうしてこういうことになったんだろうかというふうなことを、少し整理できないような状況で、その後の活動というのは全く私自身は知らなかったんですが、出来たときの状況を見学に行って本当に中枢施設で熱望された、そこの辺りには知的障害者施設が無くて出来たところなので、どうということになったのかというのが少し考えるものがございました。

済生会の理事長の炭谷さん、元厚労省の社会局長をなさった方ですが、その方によりますと貧困ビジネスと踏まえて今日改めて人権を問わなければならないことがこの間の月間福祉のほうに書いてありましてですね、そういうところをまた、この障害者を施設で虐待を行う。これは誰もがこういった心を持っているかもしれない、そこが改めて問われるというところで、人

<p>4 議事</p> <p>(1) 平成26年度実施状況及び平成27年度実施予定について</p> <p>①基本目標1「地域福祉を推進するひとづくり」</p>	<p>権というのをもう一度問わなければいけないというところ。地域福祉のひとつの前提としてそのへん改めて感じるところでございます。こういった問題を推進していかなければいけないけど、やはり、少し歴史が前戻っていったりとかいうようなところで、少し驚きでありますけど、私たちの中でそういったところを改めていかなければならないという風を感じたところでございます。少し題は外れましたけど、今からその評価委員会を始めたいと思います。じゃ、ここからは座らせていただきます。</p> <p>それでは、議題に基づいて議事を進行させていただきます。本日は、議事としては(1)の平成26年度の実施状況及び、27年度の実施予定ということでございます。それぞれ基本目標を①②③という形で皆さんから御意見を賜りたいと思いますが、この件につきましては事前に資料が届いておりますので、説明については主要な事業などに要点を絞ってお願いしたいと思います。また、本日は正午までという予定でありますので、そのへんのところを皆様方進行について御協力のほど宜しくお願い致します。</p> <p>では、基本目標の1「地域福祉を推進する人づくりについて」ということで事務局の方から説明をお願いいたします。</p> <p>【事務局】</p> <p>(社協)</p> <p>山口市社会福祉協議会北部支所の松村です。社会福祉協議会の取組みにつきまして、私の方から御説明をさせていただきます。なお、説明をいたします資料が右側に資料1と書いてあります、A3の資料になります。主要なところのみということですので、資料の見方の関係で、まず社会福祉の社会福祉協議会の取組みの説明をさせてもらった後に、続けて市の取り組みをその項目ごとにしていく。また次の項目では市社協の取組というようなかつこうで説明をさせて貰ったらと思っております。座って失礼させていただきます。</p> <p>まず1ページです。基本目標1「地域福祉を推進する人づくり活動目標1の地域福祉活動団体等の活動の推進と人材の育成のところ。ここは、活動面の1番のところ。担い手の確保と育成の支援のところ。平成26年度の市社協の実施状況のところですけど上から2ポツめのところの、災害ボランティア登録者等を対象に災害ボランティア研修会を開催したということで平成27年1月31日に県の総合保健会館のほうで行っております。災害ボランティア登録者等ということで一般の方も呼びをして、多数の方が来られたわけでございます。参加者260名でありまして、この研修会の後には災害ボランティアとして登録をするというような、登録用紙の記入のほうもお願いをしたところでございます。それから、その下の黒ポツです。学校等での福祉体験学習や福祉教育に関心のある方を対象に福祉体験学習サポートボランティア養成講座を開催したということでこれは人づくり講座の一環として行ったものでございます。平成27年3月5日それから12日。会場は山口市社会福祉協議会、当時の小郡支部で行いました。参加者が16名で</p>
---	---

ございました。次に27年度の実施予定でございますが、下から2ポツめのところの、山口市生活支援介護予防体制づくりである、介護予防生活支援の担い手養成講座に協力するということになっております。これまた、一番最後の19ページでももう少し詳しく説明が出来るかと思いますが、山口市でも今度行います地域包括ケアシステムの構築の中の一環として、27年度取り組むものでございます。担い手の養成講座等をですね、こういう風なことに市社協としても取り組めたと思っております。それからその下、人づくりボランティア養成講座を今年も違う企画をして開催したいと考えております

(市)

失礼いたします。山口市社会課の田村と申します。同じく、市の方の説明を福祉協議会の後のほうにさせていただきます。座って失礼させていただきます。

市では活動目標1について、災害ボランティア研修会及び福祉体験学習サポートボランティア養成講座について市社協へ支援を実施しており、27年度も引き続き支援を行います。また、協働推進課の所管で市民活動支援センター主催の交流会を実施いたしました。27年度も同様に交流会を予定しています。それから、市報配布ルートを活用して活動の広報・周知を行いました。27年度はホームページ等の活用も視野に、引き続き各種活動のピールを行います。

(社協)

続きまして、3ページにお進みください。活動目標2「福祉教育の推進とユニバーサルデザインの啓発」のところからです。活動名を①福祉体験学習の推進でございます。26年度の市社協の取り組みのところ、上から2つめの黒ポツです。市内各小中学校から福祉体験学習の相談や体験指導等の依頼に対応したということで、その下にありますが地域の福祉委員さんに協力していただき地域を巻き込んだ福祉教育に心がけたということでございます。件数を書いてありますが、小学校22件、中学校1件、その他ということで地域のほうに出向きました。延べ2427名の方が参加しておられます。それからその下、平成22年度から福祉教育推進協力校として各学校の方を指定させてもらっております。26年度は、島地小学校、さくら小学校、川西中学校、仁保中学校、それからその下の佐山小学校、八坂小学校、宮野中学校、徳地中学校さんを指定させて頂いております。27年度の実施予定のところ、ちょっと真ん中へんでございますが、福祉教育推進協力校の年次の指定及び福祉体験学習の企画立案や、支援を行うということになっております。これは26年度同様ではございますが、28年度も福祉教育の指定校としまして、佐山小学校、八坂小学校、宮野中学校、徳地中学校、それから大内小学校、興進小学校、小郡南小学校、湯田中学校さんを指定させて頂いております。年間3万円の補助ではございますが、この中で様々な福祉教育をして行いたいということで市社協の職員としても企画立案の段階から御協力をしておるところでございます。

それから、一番最後の黒ポツですけど、南部地区で手話、点訳、翻訳講習会授業を開催するようにしております。特に、北部支部の方は、しらすぎ会館がある関係でございますが、南部支部の方はまだこういった講習会とかが、しっかり行われていませんでしたので、今年度は南部地区を対象にこういう風な講座を開催する予定でございます。

(市)

市では、活動目標②について、福祉教育推進校について、市社協を通じて補助金を交付し、福祉教育活動を支援いたしました。27年度も引き続き支援を行います。また、学校と地域の福祉教育協働事業への支援といたしまして、学校と地域が一体となったコミュニティ・スクールにて、地域の教育力活用及び地域貢献することの推進を行ってきたところです。27年度も引き続き推進してまいります。それから、高齢・障がい福祉課の所管で各種計画の点字資料作成を支援、各種審議会資料にSPコードを導入の支援を行いました。27年度も引き続き行います。

(社協)

はい、じゃ続きまして5ページをすみません、お開きください。活動目標3「企業の社会貢献活動や、福祉施設の地域貢献活動の推進」これも①の活動名のところでございます。相談対応窓口等の周知・啓発のところでございます。市社協の26年度の実施状況でございます。最初の黒ポツのころの、社会貢献活動に関する相談や活動の場を調整を行ったということで、①として、中国電力株式会社山口市支社及び山口営業所による施設での電気設備の点検、清掃活動の調整を行いました。活動の場所は梅光苑さん、それから阿東園さん、あんずの里さんとなったわけでございますが、日にち等の調整を行いました。②の山口市ヤクルト販売株式会社の方が福祉委員の定例会等とか、サロンとかに出向いて健康講座をして頂きましたので、この調整もしております。それから③として、企業のエコキャップの回収等にも協力をしておるところでございます。最後の黒ポツの、平成26年度企業ボランティア活動促進モデル事業所として山口ヤクルト販売株式会社を山口県社会福祉協議会のほうに推薦をしております。それから、27年度の実施状況ですが、これも、上から2つめの黒ポツですが、企業等から社会貢献活動に関する相談や活動の場の調整担当を決めて対応に当たるようにしております。ちょっとここには、書いておりませんが27年度の企業ボランティア活動促進モデル事業所として、一級建築士事務所の成匠さんを今年度は県社協の方に推薦をしておるところでございます。

(市)

市では、活動目標③について、企業の社会貢献活動、地域貢献活動の情報提供をいたしました。27年度は商工団体と連携を図り、調査、研究、情報提供等進めてまいります。また、地域交流センターや市民活動支援センターでの情報提供を行ってまいりましたがこちらも引き続き行います。

【草平会長】

よろしいでしょうか。ただいま基本目標1について説明いただきました。これについて御質問、御意見等お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【高野副会長】

すみません。この計画の評価というのは大変難しいと思ひまして、どういう形で評価すればいいのかという、方法論というのも中々こう、きちんとしたものが無いのではないかと思っております。思っておりますけれども、今沢山の事業をこの一年間実施されたというのは大変よく分かりました。色々な部分で活動が広がっているというのはこの地域福祉計画、地域活動計画のひとつの成果だろうというのは、十分分かるんですけども、実施したという事実の報告を今頂きました。これについて、例えばあるところでは、今年は南部地区で広げていくんだと。今年は地域的な広がりが弱かったので、次の27年度はちゃんとそこのバランスをとってやっていくんだというふうなお話を頂いたんですけども、はたしてこれが市社協で実施されて、あるいは市で実施されてどういう点に課題があつて、だからこう、27年度にはこういう風に展開するんだというようなことを少し言っていただくとですね私たちが、ちょっとこう理解が進んでこういう点をもうちょっと注意して考えなければいけないのかなという風に思ひますので、今回はちょっとあれですけど、今後の課題としてもし可能であれば少しく、どういう点に課題があるという風に、社協や市のほうでお考えになっているのかというのを出して頂けるとですね、委員としても、これをずっと読んでいきますと、なかなかちょっと大変でですね。以前と比べてどこがどう変わったのかというのがちょっと分かりにくいところがございますので、大変無理な、大変な作業ではあるかと思ひますがもし可能であればそういう風にお願ひできればというふうに思ひます。

【草平会長】

はい、御意見ありがとうございました。評価のあり方というところで、この地域福祉計画を策定するというところで、社会福祉法ができて、かなりの年月が経ちました。次はですね、計画立てたものを実施するのをどういう風に評価をするかというところも若干全国的に見れば研究も進めているような状況でございますが、すみません、そのへんのところ紹介が何かありますか。また、次の課題になるかと思ひますが、長谷川先生少し意見を頂いておければと思ひます。

【長谷川委員】

はい、今高野先生がおっしゃられたように、地域福祉計画、活動計画のひとつの課題というのは、評価の仕方というのはあまり、こうきちんと出来ていないというのは、結構問題になってまして。それほどこもそうなんです。数値目標を達成出来たかどうかという形で評価するというをやったことがあるんですけども。なかなかその数値目標もですね、課題に達して課題に対して作ろうと思うと、なかなか難しくて。例えばですね、民生委員さんの充足率を何パーセントにするとか、前もやったこともありますし。そういうところの数値目標も非常に立てにくいことも多いので、次回以降の課題ではもちろんあるかと思うんですけども、それは我々も色々考えなければいけないところではあるかなと。ひとつ一応、この計画は、計画の目標数値も一応置いてはいるところはございますので、そのところの部分での目標の達成度というのは、多分それぞれ事務局の方でも色々見ていただいているのかなというところではあるかなという風に思います。なので、評価自体は折角ですから、少しきちんとやっていかなければいけないのかなというところは思っているところではあります。

【草平会長】

はい、数値目標というひとつ考え方がありますよというところでした。実際、私の方も本部のほうで計画を立てて実施をして評価というところのルーティーンが、色々な社会の中で説明責任を問うといった形で出ておまして、その立てた数値目標に対する努力はするんですけど、それが目的化してしまって、本来のその業務を遂行するというところのあたりのところが見失うという結果もあるわけではございますが、その数値の指標の持ち方というのは大変難しいなと本部のほうで感じてるところでございます。また、地域福祉計画の評価について、もう少し私共も学んでこの山口市の評価について反映したいなというようところで今感じているところで。今日のところには間に合いませんが、高野副会長さんのご意見を参考にしたいというふうに思います。その他、個別の課題について。じゃ、堅田さんの方からお願いします。

【堅田委員】

すみません、個別のと言われたんですけど、そうではなくって、今のちょっと重ねることになるかと思うんですけども。やっぱりこの評価というのは、以前からずっとこの問題が繰り返されているように思いまして、私の中では質のことを知りたいというか、その背景、ここの文字には無い、何故ここがそういうふうに使われた、とか、でそれを実施してどうだったか、という中身のところを説明していただいたら事前に配布されている訳ですから、活字を読んで頂くだけであれば事前に読んでいるというか、ある程度見ているので、それを活字に無い背景を今日説明して頂いて、中身の質をちょっと私は知りたいかなと思っています。数値も大切ですけど、中の質を知りたいかなと思っています。

【草平会長】

例えばその、広報に入ってこのことはどういう意味があるんですかという、私は考えるんですがというところがありますでしょうか。

【堅田委員】

一番最後の説明であれば、何故その企業が選ばれて、そこになったのかとか。あの、ヤクルトさんが定例会に参加されて健康講座をされたとか、色々ありますよね。次に、今度成匠を選定するとか言う話とかもありましたけれども、その、何故そこがそうになって、でどうなったのかというのを。活字にない部分を。

【事務局】

はい、では、5ページのところの企業の貢献活動のところでございますが。ヤクルトさんをまず推薦した理由でございますが、これ、推薦する前からですね、ヤクルトさんのほうから申し出がありまして、福祉委員の定例会とかサロンとかに出向いて、健康講座、うんちく講座とかということですけど、そういったことをやらしてほしいというお声かけが先方の方からありました。それをさらに進めてもらおうという意味で、26年度推薦をしたところでございます。で、27年度新たに成匠さんを推薦をしたわけでございますけど、これもですね、地区の担当者とかそういうふうなところから情報を集めたところ、企業として、子ども棟上げ式であるとか、そういうふうなかつこうの活動を企業と地域を巻き込んでしておられるよというような情報がありましたので、お願いに行きまして推薦をしたということで。今の行っておられる活動をまた推薦をして指定を受けられることによって、よりまた幅広く勧めてもらえればという意図で推薦をしたところでございます。

【草平会長】

如何でしょうか。あの、個別のことに関して進めていただきましたけど。よくよく聞いてみるとヤクルト事態は販売促進という意図もあるかなと、若干感じるところもありますが。その他、ございますでしょうか。個別のことに関しまして。では、吉田委員の方から質問お願いします。

【吉田委員】

失礼します。ピンポイントで申し訳ございませんが、例えばあの、広報のあり方ということでですね、4ページ等にありますように、26年度平川小学校と地域の高齢者等が共同で学校の花壇作りを行い、交流を深めたことがございます。で、そういうことがあつげなということでですね、やはり今市の方からも学校と地域が一体となったコミュニティ・スクールとして、地域の協力の活用及び地域貢献することの推進という中の流れの中でですね、こういうことがあつげなということが分かることでですね。秋穂地区でもたまたま校舎の改築ということがありまして、新しい方も出来たのでじゃ、地域の方と一緒にということですね。やはり、何もないと学校というものなかなか一歩踏み出せないんですが、平川小の話を聞いたりして、あ、これだったら秋穂も出来るなということで取り組んでおります。ですから、こう

いった広報で、ちょっとしたことであってもですね、ま、人によってアンテナの場所が違うと思うんですが学校関係であれば一步踏み出す時にひとつ背中を押すですね、ことになっているのかなど。とういことでこういう点についてはですね、有難かったなと思っております。どうもありがとうございました。

【草平会長】

平川の実践が秋穂の方にも伝わってきて、広がってきましたという御報告でございました。その他、ございましたでしょうか。澤村委員何か。

【澤村委員】

あの、目標の①のところの財源の確保が新規ということで、④のところでもあったんですけど。この地域福祉活動を進めていくのに、その前から気になっているのはですね。地域福祉協議会の方の財源ていいですが。それがどこまでその地域福祉活動団体にですね、渡ってどんな活動になっているのか。で、そでが地域福祉計画とか活動計画の中でどういう風に関連するというか、反映されているというか。何かそういうところをですね、気にして少し整備して頂くというのは凄い大事なんじゃないかと思っております。それと、色々地域で活動する場合は多分地域交流センターの機能強化といいたいでしょうか、あるいはその中がもっと組織的に縦割りがあればそれを無くすような努力をして、うまく動くような形になっていかないと今から市全域でというよりは、いろんな地区でやっていくことが中心になってくると思うんですけど、そこが上手くいくようにですね、考えていくのも非常に大事なんじゃないかなと思ってまして。そのへんの所をですね、また意識して取り組んでいただけるとありがたいなと思ったのが一点です。

それからもう一点は、企業或いは福祉施設の地域貢献のところの推進なんです。最近施設は社会福祉法人の福祉施設側の方が何かしなきゃいけないというふうに、社会福祉法も変わってくる中で思っている状況がありますが、社協と施設の経営者が話し合うような場を、事業としても無いみたいなので、もう少し同じ市内の社会福祉法人がひとつにまとまるようなことを考えるのということが非常に大事ではないかと。去年は特に課税問題等がありまして反対行動をしたりしたんですけど。もう少しこう、一緒に何か介しこの地域福祉を進める、或いは地域の課題をですね、解決するメンバーとして一本一本、ひとつひとつ何かの施設に何かを頼むというよりは、社会福祉法人がまとまって社会課題を解決するような動きをですね見せていくということが、今求められているのではないかなと思ひまして、ちょっとその貢献のところですね、新たなそういう取り組み等の、これは要望的な話になりますけど、ちょっと考えたほうが今からもっと地域福祉を進めることになるのではないかなという風なことを感じたところです。

【草平会長】

はい、二点ご指摘頂きました。ひとつは、財源について、地域づくり計画協議会ですか。それとの関連が少し触れてないというところを組織だって考

えていく必要があるんじゃないかなというところ。もう一点は、地域貢献の中に社会福祉法人が今、その地域貢献のあり方を非常に問われていて、また社会福祉法の改定というところも論議されている中で、社会福祉協議会等市内である社会福祉施設を持つ社会福祉法人との繋がりをこの際作ってですね、社会福祉法人側は、地域貢献をしなければならない。また、財源的にも地域に還元をする方向で動きつつある中で、この財源をこの地域福祉の推進のほうに今作っておかなければ、別の方向に何らかの形で地域貢献はされるでしょうが、地域福祉の推進の方いうところにはいかないのではないかというところでございます。二点ほど、そのためには社会福祉法人と社協の繋がりとところが大事ではないかという御意見でございました。一点目その、財源化するその地域づくり協議会等の関係ですが、どうでしょう、現場ではそれぞれ地域では、宮野辺りでは地域づくり協議会と地区社協というの、表裏一体としてやられていると思うんですがそれがここに出てくるとあまり感じられない部分があるというところ。これはずっと計画を立てている時からその辺のところは考えるところで。市の方は部が違って、でも現場のその住民からすると地域づくり協議会と地区社協というの、ほぼ同じ人たちが接する。それが財源は別の形で、ここの報告では地域づくり協議会での活動というのあまり見えないような形で出て。地区社協の関係するところは出ているところが、若干違和感があるところで。その所を整理できないかなというの計画を作るときから感じていたところでしょうか。その辺、誰に聞けば宜しいでしょうか。如何でしょうか。あの、関係者の方色々多いと思うんですけど。緑委員もそうですし、坂本委員もそうなんですけど。そのへんのところ如何でしょうか。緑委員さん、如何でしょうか。

【緑委員】

あの、私も宮野のふしの学園で先般まで理事をしておりました。また、あの老人施設のほうの評議委員をしていたんですけど、そのように地域での評議委員制度を設けてまして、それぞれの地域の中から、分野からそれぞれ評議員を選出していただいて、色々な分野からの提言等を頂きながら施設運営また社会福祉協議会との関わり、住民との関わり。そういったことのニーズに対してどのように取り組んでいるかというのは、評議委員会の中で十分ですね、お話頂いて、そうしたその物を理事会に吸収するという風な形で施設に取り組んでおります。また、老人施設等におきましても、家族との関わりの中で、家族の保護者の方々のご意見頂きながらですね、施設の中で何が役割として出来るのか。また、自分のニーズに答えられるか、そういったことについてですね、年一回または二回程度は実施をされております。その度に私どもも御案内頂いてその中で私なりに提言等もさせて頂いて住民とのパイプ役等もさせて頂いているんですけども。こういったものも、やはり数が、回数が多いのがいいのかな。特に最近認知症等が増えてきている中で、色々な家族、家庭、私たちがわからない分野がですね、そういった施設と住民との座談会或いは家族の会との座談会。そういった中で問題提起される。私なりに、また色々なニーズを把握することが出来てきているのかなという風に思います。それで、やり方についてはそれぞれ施設の、開かれた施設といい

ますか、そういったことについて十分社協サイドから提言をして頂ければいいのかなという風に思います。

【草平会長】

あの、今社会福祉法人と地域の関係について御説明頂きました。地域づくり協議会が申す財源あたりのところを地域福祉の反映というところも、もう一点あったかと思いますが、坂本委員さん何かございますでしょうか。

【坂本委員】

実態に必ずしも十分に把握しているわけでは無いんですが。

【草平会長】

地域づくり協議会とその地区社協の関係の中で、後の財源として可能性があるあたりは、その辺は如何でしょうか。斉藤委員さんの方はその辺は如何でしょうか。

【斉藤委員】

地域づくり協議会の方における財源の問題ですか。

【草平会長】

それを地域づくり活動に使えないかというところの質問だったという風に思います。

【斉藤委員】

私は町内会のほうでしたら、福祉委員と体育委員をやっております。福祉委員の方の関係は、市社協さん或いは包括支援センターさんのところから例会等に来ていただいてその時に勉強会等やっとするわけですけども。地域づくりにおいては、私は社会体育部会に所属しております。昨年、少し最初は話は外れるかもわかりませんが、社会体育部会の中で私が中心になりましてウォーキングマップ白石というのを作らせていただきました。これがひとつには健康寿命の延伸とあってあることに繋がるんじゃないかと思ひまして、それを推進したんですけど。最終的には、五千部ほど三十万円で作らせて頂きまして、白石地区の全戸配布をいたしました。市役所の皆さんからですね、白石においてはなかなか面白いウォーキングマップ白石が出来たということで頂いたわけです。その時の資金につきましても、地域福祉づくり協議会の中における事業としてそれだけのお金をいただくことができたからそのウォーキングマップ白石が出来たということでありました。大変役に立たせて頂きました。ありがとうございました。

【林委員】

私もひとつづくり部会にいたんですけど2、3程ですね、どうしてもその、予算立てをしないと出来ないのだからこれこれについては地域づくり協議会から予算を貰った方が良くということで立てたんですけど。傍聴しておりました

②基本目標2「安全安心して生活できる地域の輪づくり」

協働推進課の方がですね、手を上げられまして。いや、それは使ってはならぬと言う事で。いわゆる、財源というのは縦割りだなという風に感じました。ですから、地域づくり協議会の分については、協働推進課を主体に使うんだと。それを地域福祉、いわゆる社会課ですよ。それに使ってはならぬと言う事で。非常に厳しい指摘がございました。それから、評価ですけど。何事も、私も女房と飯を食いに行った時に、今日どうだったかねと言ったら、美味しかったと言うのは言うんですけど。いわゆるあの、計画を立てて、市民がどれだけ満足したかということがですね、一番の評価じゃないかと思うんですけど。今お話を聞いてますと社協と社会課だけの方が言っていたいて。それに対しての評価というのは、どのようにその、市民の方が感じたのかどうかという。堅田さんが言っておられるように、ま、その辺のところのやられた方の状況とかアンケートとか聞いてみることも必要じゃないかと思うんですけど。実は私もあの、地域の福祉委員、福祉委員じゃないですけど、福祉教育のための何か一期生ということで、私も知らない間にそういう風に参加したんですね、結局これがサポートボランティア養成講座なんだということで。私がやったことが、こんなことに書いてあるのかなと。いわゆるその際もやられた方のどういう満足が得られたのかどうかということで。もう少しその、それまで詳しくやらないと評価というのは成されないんじゃないかなという風に感じました。以上です。

【草平会長】

市民の満足って辺りが見える形が評価にいいんじゃないかということでございましたが、その他御意見等ございませんでしょうか。あの、協働のまちづくりの計画とこの地域福祉計画というのは、永遠のテーマで、いかにやっていくかというのは次期計画あたりでは考えていかなければいけませんし。実施の中では、当然これは複雑に絡みながら各地域では行われていくと思いますので、その辺のところはここの中でも常に関心を持ちながらどういう風に地域の方々が其々の政策を活用しながらですね、有機的にやられているかというのは、見ていく必要があるんじゃないかなと思います。

では、この件につきまして時間を取ってありますが、色々御意見があるかと思いますが次の方に回って、また全体を通してご意見を頂きたいと思えます。それでは、基本目標2「安全に安心して生活ができる地域の輪づくり」というところのことについて事務局の方から御説明をお願いいたします。

【事務局】

(社協)

じゃ、資料の6ページになります。活動目標1「地域の生活課題の発見・把握と解決の仕組みづくり」です。活動名の②のところがございます。地域の生活課題を解決、定期的に点検する仕組みの充実でございます。市社協の26年度の実施状況としまして、第一次小地域福祉活動計画の策定。小郡支部と阿東、阿知須地区社協で行いました。第二次の小地域福祉活動計画の策定を湯田地区社協、平川地区社協で行っております。第三次の小地域福祉活動

計画の策定を小鯖地区社協、嘉川地区社協で行っております。それで今日です、お手元の机の上に資料をです、お配りをしております。小郡地区地域福祉活動計画というちょっと写しでございますけど、小郡が第一次の計画を立てられましたので参考までに今日資料としてお持ちをしました。またご覧になって貰ったらと思います。で、この計画を策定するにあたっては、やはりですね、座談会とかアンケートとかで住民からの意見を聞くという格好をとったわけでございますが、関係者が多かったのはどうしても否めません。ただ、そういう中で課題なり、今後行っていく事業なりの共通認識、共通理解が出来たところは、若干の成果かなと思っております。課題としましては、やはり一般住民の方の参加がなかなかちょっと難しかったというのも課題かなと思っております。27年度の実施予定でございますが、第一次の小地域福祉活動計画、秋穂地区社協と阿東地区社協で策定をしてもらうようになります。この秋穂地区社協、阿東地区社協で策定されますと、山口市内25地区社協がありまして、21地区あるわけでございますが、全ての地区におきまして、小地域福祉活動計画が出来るという格好になります。それから、第二次小地域福祉活動計画ですけど、大内地区それから徳地の串地区社協で策定をして貰うようにしております。第三次小地域福祉活動計画でございますが、大殿地区社協、鑄銭司地区社協で策定をしてもらうようにしております。で、この計画を策定するにあたって、今までやってきた計画の見直しなんかを同じようにしてもらうようにしております。策定後、大体五カ年計画が多いんでございますが、この中で毎年ですね、実行委員会を開催してもらうようお願いをしております、その実行委員会の中で計画の進行管理をお願いをしているところでございます。

(市)

市の方では地区住民座談会の開催支援、参加ということで、参加できる座談会へ参加、または、開催の支援を行ったところです。27年度も座談会へ参加し、支援も引き続き行いたいと考えております。小地域福祉等に関する活動計画策定、実施、点検の支援も同様に参加や支援を行ったところでございますが、こちらも引き続き、行ってまいりたいと考えております。

(社協)

それでは、8ページへお進みください。活動目標②地域交流の場づくりのところでございます。①高齢者の交流の推進のところでございます。市社協の26年度の実施状況でございますが、主にふれあいいきいきサロンのことについてご説明したいと思います。26年度末で市社協登録サロン、240サロンございまして、26年度は主にこの240サロンの活動支援を行ったところでございます。この240のサロンの内、高齢者のサロンが229、子育てサロンが11でございました。活動というのは助成であるとか、企画に関しての相談を行ったり、サロンの情報誌を発行したり、レクリエーション講習会を行ったりということで、高齢者の交流の場、つどいの場が少しでも広がるように支援をしております。27年度の実施予定でございますが、同じくふれあいいきいきサロンの運営ということでまた支援を行うようにして

おります。27年度は特にですね、サロンは地域の見守り活動に繋がりますよということも重点的に各地区において説明をしまして見守り活動の一環としてもサロンを推進して欲しいということで、地区社協さんと一緒になって働いていきたいと思っております。それから真ん中の辺に、地区サロン情報交換会の支援を行うということで、今各地区でサロンをしておられる方の代表者なりを集めての情報交換会をしておられるところが11箇所しかないわけですが、出来ればこの情報交換会の開催地区数を増やしていきたいと思っております。サロンの課題としましては、担い手不足ということと、担い手の後継者問題、それから送迎であるとか会場、場所が無いとかという問題があります。で、最近出てきた問題ではなくて、かねてからある問題ではございますが、担い手であるとか後継者問題であるとか色々地域に入り込んで、背景も違うかもしれませんが出来るだけ事情を聞きながら支援をしていきたいと思っております。26年度の実績のところなんですけど、今回は市社協登録サロンが240ということになっております。昨年度末が239でありまして、実際にはひとつのサロンしか増えていないような感じになるんですけど、五増四減ということで、5つサロンが増えたんですけど、その代わりに4つサロンが無くなってしまったということで。無くなったサロンの主な原因は担い手の方が大変だったということでですね、そういう風な理由が多かったと思っております。以上です。

(市)

活動目標②の地域交流の場づくりで、市の方では主だったものと致しまして、こども家庭課の所管で地域子育て支援拠点施設運営の支援や子育て支援情報ハンドブックの作成、周知・啓発ということで児童館の運営の支援を行いました。また、中央図書館においては、ブックスタート体験事業の推進ということで、86回実施いたしております。27年度も引き続いて実施する予定です。

(社協)

それでは続いて10ページをすみません、お聞きください。活動目標③地域のたすけあい活動の推進のところでございます。下の③でございます。地域福祉推進組織の設置に向けた支援及び、活動強化です。市社協の26年度の実施状況でございますが、前回3つめの黒ポツでございますけど、地区社協未設置地区に向けて、地区社協設置マニュアルを作成したということと、地区社協未設置地区である小郡、秋穂、阿東地区に地区社会福祉協議会の方を設置をすることについて支援を行ったというものでございます。27年度の実施予定でございますが、市内25地区社協に運営、活動についての支援を行います。それから、昨年度設立した地区社協を交えての連絡会を開催するという事で新しい地区社協さんを主に支援をしていきたいと思っております。

(市)

市の方では引き続きという言い方にもなりますが、認知症サポーター養成

講座を開催致しております。地域見守り支え合い需給調整会議への参加、協力を行ってまいりました。27年度も引き続き、参加、協力をしていきたいと考えております。

(社協)

続いて、11ページをお開きください。活動目標④災害時の要援護者支援活動の推進です。②の災害ボランティア活動の推進です。市社協の26年度の実施状況でございますが、最後の黒ポツのところでございます。平成25年度7月28日に発生した豪雨災害を踏まえて更新した、山口市災害ボランティアセンター設置運営マニュアルの決定を図るため災害ボランティアセンター運営の模擬訓練を行いました。これは、職員が41名、それから地域のボランティアさん52名に参加していただきまして、小郡地区で災害が発生したと過程をしまして小郡のふれあいセンターに災害ボランティアセンターを立ち上げました。ボランティアの100人を受け入れるということを想定をして、マッチングであるとか、資材管理であるとか各班に職員を配置をしまして、対応等の模擬訓練を行ったところでございます。午後からは山口災害救援の方に講師としてお越しいただきまして、ロープワークの使い方であるとか、運び方であるとか、そういう風なことの研修を行いました。27年度の実施予定でございます。一番最後の黒ポツのところ、職員研修会時にこの山口市災害ボランティアセンター設置運営マニュアルの周知を行いたいと思っております。災害ボランティアの模擬訓練をした時なんですけど、職員の徹底はもちろんだったんですけど、地域のボランティアの方も災害ボランティアとはこういう風なものだなというのが少し認識して頂いたんではないかと思っております。

(市)

市では、市に災害時等地域支えあいマップ作成を契機とした登録の促進を行い、また、住民異動を把握し、登録内容の更新を行いました。今市社協さんもおっしゃいましたが27年度も各種支援等ございますけれども、特に、災害ボランティアセンター活動及び災害ボランティアセンター設置・運営等については、市社協と連携を密にし、必要な支援を行いたいと考えております。

(社協)

では、12ページです。活動目標5安全に暮らせる推進のところでございます。これは③詐欺・悪質商法等から被害防止の推進のところでございます。市社協の26年度の実施状況でございますが、下から二番目の黒ポツのところ、山口市消費者生活センターと協力し、見守り関係者への周知を図ったということで、これは市の消費者センターだけではなくて、県のほうともちょっと連携して関係者への周知を図ったところでございます。それからその下の、ゆうあい訪問活動グループ員研修会におきまして、詐欺・それから悪質商法防止をしてもらうということで内容に取り入れたところがございます。それから、27年度の実施予定でございます。一番下の黒ポツでござ

いますが、各地区社協や各団体開催の研修会時に詐欺や悪質商法からの被害防止の推進のための内容を盛り込んでもらうように依頼を致しました。また、普段の見守りの中でもこの防止を図るとするのは非常にウエイトが高くなってくると思いますので、そういった見守りの中でも気をつけてくださいということの周知等を図ったところでございます。

(市)

市では、ここでは、教育委員会関係課や生活安全課が主となっておるところでございます。子ども110番の家ののぼり設置数1570件や、不審者や有害鳥獣の出没情報あるいは防犯等設置の補助事業など実施しております。様々な事業がございますが、27年度もこちらの方も引き続き行ってまいりたいと考えております。

(社協)

では、13ページです。活動目標6民生委員・児童委員及び福祉委員活動の推進でございます。②の福祉委員の活動の強化と住民への周知啓発のところでございます。市社協の取り組みで、26年度の実施状況でございますが、3番目の黒ポツです。福祉の輪づくり運動関係者研修会を開催いたしました。11月27日に210名の関係者の方が集まられたわけでございます。最後アンケートをとったわけでございますが、この時は徳山大学の小林先生にこれからの地域福祉についてということで御講演をいただきましたけど、非常に内容的に良かったので、福祉を推進していく意識が高まったという御意見をたくさんもらっております。これからもですね、こういうふうな研修会は今年度も続けていく予定でございますが、一度だけではなかなか浸透しないので、折を見てですね、こういうふうな住民の方の福祉意識を高める研修会なりを進めていきたいと思っております。27年度の実施予定でございます。最初の黒ポツの、福祉委員ガイドブックの見直しを行い、全福祉委員へ、福祉委員の役割について周知するというところで、今福祉委員のガイドブックというのがありまして、これは23年の4月に発行したものでございます。今年度、市社協の組織体制も変わりましたし、また地域における課題とかですね、取り組んでいくべきこと。また、福祉委員さんが対応してもらえぬ事も若干変わってきておりますので、こうしたことも見直しを行いまして、あったガイドブックを作成したいと考えております。それから、最後から二番目の黒ポツで、福祉委員定例会の開催を支援するというところで、各地区の福祉委員定例会に地区社協職員が、担当職員が出席をして、色々情報をもらいながらこちらの方も情報提供なんかもしております。定例会の開催も、毎月開催される場所もありますし、そうでない場所もある訳でございますが、出来るだけ充実するような定例会であるように事例の検討会を行ってもらうように呼びかけたり、ミニ研修、包括支援センターの業務内容を知るといようなミニ研修であるとか、そういうふうなちょっとした研修会をしてもらうことで福祉委員の資質向上が高められればと思っておりますので、そうしたところのアドバイスをしているところでもございます。

(市)

市では、市報やホームページに民生委員・児童委員について掲載致しまして、周知を図ったところでございます。また、市報配布ルートを活用致しまして、市社協さんの発行する「社協だより」を広く市民に配布することで、福祉員活動についての広報、周知を行ったところですが、27年度も同様に周知を図ってまいります。

(社協)

では、14ページです。活動目標7今後の地域福祉推進のために必要な活動の②のところは、小規模高齢化集落の課題解決に向けた検討の場づくりというところから、市社協の26年度の実施状況でございますが、他市町の取り組みについても情報収集を行ったところでございます。27年度の実施予定でございます。2ポツ目の阿東地区において第一次小地域福祉活動計画を策定を27年度されますので、この場でこういった課題解決に向けた協議が行えればと思います。その下の、徳地串地区におきましては、第二次計画の策定委員会をもたれますので、阿東、串とも小規模高齢者集落が多いところと聞いておりますので、合わせてこういうふうな議題も提案できればと思っております。それから、ここにはありませんが、生活支援コーディネーターという仕事も今年度、市か委託をして社協の方で受けましたのでこの役割としても、こういうふうなところの検討について担えればと思っております。

(市)

ここでは、企画経営課が行うまちづくりアンケートを引き続き活用して参りたいということと、情報収集にあたっていきたいということでございまして、27年度も引き続き行います。それから少し肉付けさせて頂きたいのですが、先ほどから各委員さんの方から評価についてということで色々ご発言頂いておるところでございますが、市のホームページの中に山口市まちづくりアンケートというのがございまして、企画経営課というところがやっているアンケート調査でございますが、その中に、健康や医療福祉についてということで。例えば一番最初の質問ですと、あなたは普段健康だと思いますか、とても健康だと思うとか、そういった項目で評価が数字として確認できる場所と申しますか、というようなものもございまして是非見ていただけたら参考にはなるのではなかろうかと思っております。

【草平会長】

はい、ただ今基本目標2について説明頂きました。これらにつきまして、語質問、御意見ございましたらお願いいたします。澤村委員の方から。

【澤村委員】

あの、6ページのところから色々地区の指定がございました。それで、ひ

っかかったのが、大歳地区というのは順番とか指定とかスケジュール的に予定としてはあるんでしょうか。

【事務局】

大歳地区ですか。大歳地区は二次計画の途中でありまして、今度30年に第三次計画を立てられるようになっております。今二次計画の二年目になります。

【澤村委員】

分かりました。時々お会いして話をされる民生委員さんがですね、うちではこねーなことは分らん、やっちょらんみたいなことを時々言われるので、おかしいなと思って、山口市では、やってるはずなのに何でそんな発言してるんやろうと思ってちょっと心配をしていたものですから、どうしてもその、自分の地区のことを言われるので、そこで座談会とかがなければ無いというし、皆無いようなことを言われるからですね、ちょっと心配したもんですから。働きかけのほうをしっかりと頂けたらいいかなと思います。それと、8ページのところのほうで、サロンのことがございました。それでちょっと聞いたかったのは、増えていくことについて、私は良いと思うんですけど、もともと増やす上での母数といいますか、大体何箇所くらいが目標なんだという設定があるのかということが一点。それから、先ほど五増四減という話がありました。担い手不足ということで、その辞めていったサロンがあるという話なんですけど、助成がある期間なのになくなったのか、あるいは助成が無くなったから大変だから辞めたということなのか、その理由がですね、助成金があるか無いかで、辞めていったことの関係があるかどうかというのがちょっと聞いたかったというのがひとつですね。その次ですね、見守り活動等訪問のところなんですけど。これはちょっと、また教えてもらいたいと思ったのは、生活関連事業者とその市が協定を結んでですね、やろうという話はテレビでもニュースとかで見ました。が、そういう中で社協との関係とか或いはその辺が無いので、ここでの社協がやっている活動と今の生活関連事業者との関係は、どういう風な形で仕組みとしてなっているということなのかをですね、教えていただけたらということ。

【事務局】

まずサロンのことでございます。まず、サロンを増やす上での母数というか、目標値のことだと思いますが、一応この8ページに計画が、目標値があるわけでございますが、大体5サロンずつ増やしていければという目標ではございますが、実際今五増四減とかという風にも言いました通り、5ずつ増えていければというんじゃないで、少し多めに増えてやっぱり、減っていくサロンのほうも考えておかなければいけないという風に思っております。で、一応目標値といいますと、こういう風な8ページに書いてある、毎年5つ位のトータル的にサロンが増えればというのが、目標ではございます。五増四減のところ、辞めていかれたサロンは補助金がある内のところかというところで、全て把握はしておりませんが、かなりやっぱり長いサロ

ンということで、6年目以降のサロンがほとんどではないかと思っております。それから、見守り活動の中で、生活関連事業者と市との協定ということで、山口市の方では、高齢者そっと見守り活動ていいますか、をしておられます。市社協では阿知須地区で依然県社協の指定を受けまして、地域の支えあい、強化というところで事業指定を受けて進めておりました。今その指定が無くなったわけなんですけど、阿知須ではそれを引き継いで独自にやっているという状況でございます。で、市が実施されます、高齢者そっと見守り活動も、今も阿知須でも、阿知須の事業者とも協定を結んでやっておられますので、阿知須で単独ということも無いんですけど社協でしておられる中に、この市で行われておられる協定を結ばれた事業者も含まれているという格好になっています。すみません、そういう風な回答で申し訳ありません。

【草平会長】

はい、よろしいでしょうか。その他、はい、どうぞ。

【佐々木委員】

はい、大内の民生委員でございます。11ページの災害時の要援護者支援推進ということで、この項の中の26年度の市社協の取り組みの中で、大内地区は、災害時の地域支え合いマップづくりをいたしました。これも参加者は自治会長31名、民生委員、そして福祉委員それぞれ33名、計97名によります参加者を得まして、大内全体の民生委員の方は災害時の見守り活動を通じたですね、支援者名簿をすでに、23年ごろ作り上げております。ま、それを題材にしまして要援護者の登録を108名ほどいたしております。その登録の中でこの度マップ作りをしたわけなんですけど、参加者の中におきまして、特に障がい者の方、これに対する支援の不安と申しますか、これは大きな課題かなという風に思われます。と申しますのも、私も事実障がい者の登録を1名ほど受けもっておりますけど、避難支援者の方がアパート入居者の為に、要援護者がいらっしゃるために大家さんがこれの支援に当たるということになっておるんですけど、昼間、夜、深夜になればなかなかその点が難しいじゃないかなということがございます。そして、障がいも、聴覚障がい者のために災害時の要援護者のための情報伝達は手話か又は文字でお願いするという避難プランに載っております。こうしたことか絡みますと、やはり我々民生委員だけじゃなくして、障がい者持ちのボランティアがいらっしゃいましたらそういう方の支援もですねやはりお願いするのがいいんじゃないかなという風に思ったところがございます。その要援護者の支援でございますけど、複数名による支援者といえますか、そういうことも考えていただいたらと言う風に思っております。よろしく申し上げます。

【草平会長】

はい。御意見ありがとうございます。その他よろしゅうございますでしょうか。では、長谷川委員さん。

【長谷川委員】

はい、二点かなありまして。先ほど澤村委員の質問に関連するところになってくるんですけど、今、高齢者のそっと見守り活動のところで、阿知須の県社協の強化事業に委員で阿知須に入っていたんですけども、あの時は本当に社協がうけるというその連絡を。社協とそれから生活関連事業者の協力とうことが非常に上手に、もちろんあそこは実質社協が非常に中心的に動いていたということもあったんですけども。で、もちろん市全体でやることも大事なので、それはそれでそっと事業がいいんですけど、やっぱり今ちょっとリーフレットを見させていただくと、もちろん生活関連事業者がやるということがそっと事業でいいと思うんですけど、そこと社協との連携の部分が非常に見えにくいというのは、阿知須の会議のときも最後、市の方に言わせていただいたんですけど、担当者の方に。そこが見えていないとせっかく、社協のほうで輪づくり運動という形で福祉委員さんとか民生委員さんが一緒にやっている部分があるのと、それから生活関連事業者が見守って、そこから市に連絡することになっているんですけど、そこと多分中では連絡がきちんと出来ているのかもしれないんですけど、連携は先ほど法人の連携もそうなんですけど、連携の部分が非常に見えにくいということがありますので、そっと事業の方が生活関連事業のみだからということであるのかもしれないんですけども、そこと社協、それから市との関係性というのも、もう少しきちんと出して頂いて折角見守りを全体として地域で、社協それから行政、それから住民という形で皆が一緒にやっていくということが地域福祉の目盛りになっていきますので、一個一個がバラバラで見えてしまうと中々その辺のつながりが見にくい、見えにくいということになってしまいますので、その辺はもう少しきちんとつながりを見せていただくということが大事なかなというのが一点です。それからもう一点がサロンの方なんですけど、社協が入ると高齢者が中心になってしまうということで、それはそれでひとつ大事なところ、特に少子高齢化の山口では大事なところになるんですけども、もうひとつは山口市の場合は子育ても、もちろんここは県庁所在地の市になりますから、子育てのサロンをどうしていくかっていうことがもうひとつあると思います。で、もちろん市社協の方でも子育てサロンをやっていくってことが書いてあるんですけども、これは多分連携の問題だと思うんですけど、私はこの前山口市の方のアットさんのやってる方の子育てサロンの方の、担い手の研修会に出てきたんですけども、やはり40人を超える方々がサロンの方から参加されているんですね。もちろん、市社協の方も資金と連携しているのも私は分かってはいるんですけども、ここでこのいわゆる、取り組みだけを見ると26年度に担い手の子育てサロン連絡会開催すると。26年、現状ゼロで一回やるということで、6年度の実施状況からいくと担い手交流会参加者9名ということになっておりますので、これも出来れば社協単独でやるのも大事な所ではあると思うんですけども、そういったような所の連携、先ほど法人それから今の市と社協とそれからというような、連携の部分が非常に見えにくい。どうしても、これは縦割りの計画になってしまっているの、縦割り計画、それから縦割りの役割分担の所をなるべくこう横の連携が見えるような形と、やっていることは重々承知はしているんですけども、やっているとところがやはりもう少し連携を進めるということと、見

えるところですよ、社協とやっぱりNPO法人というのの連携というところの部分も若干そういったところでも色々やっているところが見えてくる部分と、もしまだ連携のものが若干弱いようであればその部分をきちんと繋げていくということで、社協がやらなくても色々連携をしていくということで十分大事な社協の繋げていくということは役割ですし、行政の方もやっぱりそういう所はありますんで、その辺のところ若干見えてくるという良いのかなというように感じるところでございます。

【草平会長】

はい、御指摘は多分地区社協や民生委員さん福祉委員さんの活動に関しては社協の身内という形でかなり数字は上がってきているんですが、それを少しはずれたところの領域で行われている同じような活動についてもこの中に入れて頂くと少し見えやすいんじゃないかなと、NPOさんがやってらっしゃる所を社会福祉協議会が関与し、それがどうい子育てのサロンの育成に繋がって、それは社会福祉協議会もちゃんと応援はしていますよ、ていうような形で書かれたら良いんじゃないか、同じように生活関連事業者の関係も市がやっていることだけ社会福祉協議会が関与しているというところで、この数字の中で上がっていただければ良いんじゃないかと。この実績を見ますとですね、市社協さんはどちらかというと、地区社協、福祉委員、民生委員さんの活動については非常にきちんと記載があるんですが、それ以外のセクターの、組織のものについてはあまり出ていないと。或いは、市の部分に関しては、他の部、局、課のことも書いてあるんですけど、やや地域づくり課の方の領域のことは書かれていないというところが。その縦割りの部分が突破されている部分はあるけど、まだまだ感じるところがあるというところで。市民からすると、どこが提供しようとして所管しようとしても、我々の生活に関わる部分に関しては包括的に支えてくれているというこのようなあたりを、地域福祉というところで見せて頂ければという風なところだったんじゃないかと思います。その他、ご意見等ございませんでしょう。では、堅田さんの方から。

【堅田委員】

すみません。先ほど佐々木委員さんの災害ボランティアの障がい者に対する支援のことで。ちょっとひとつだけ紹介したいものがあるので、この場を借りて。今うちの法人で電子サポートブックというのを開発しています。ほぼ出来ているんですけども。国でもサポートファイルとかサポートブックというのは推進してまして、個人によるその人をどうサポートしていくかというのが全て書かれているものなんですけど。国や県や市が取り組んでいるのは紙媒体なんですね。だから、全開示なんです。名前もあれば、年金番号もあれば、何ていうかその人の丸裸の情報なんですけど。それが嫌だという方もいらっしゃるし、その紙媒体のものを持って逃げるってことはなかなか難しいので、うちではそれを電子媒体にしてQRコードの中に落としたものを開発しました。で、3年前から手がけています。ほぼ出来てるんですけども、それを今は車椅子に付けてるとか、いつも障がいの方が持ってらっし

やる鞆に付けてるとか、ネックレスをしている人にはそれに付けてるとか。そういうものに付けて動けばその人が開示したいものはすぐに開示できるし、ちょっとセキュリティをかけてパスワードやIDコードが無いと開示できないものと三段階くらいに分けてやってるんですけども。それがあれば誰もが要援護者になれるんですよ。それを見て、どう見るかという、スマートフォンだとか、タブレットとか、パソコンだとかで読み取ってみるんですけど。災害時にそういった電子機器が上手く活用できるかどうかというのは、ちょっと疑問があるところもあるんですけども、それであれば、一緒に避難していく。紙媒体のものは置いて避難してしまうことが多いので、サポートファイルは電子で携帯してるというのが良いかなという風に思って今やってるんですけども。それであれば、その誰もが要援護者になれるんで、そういったものも、手がけている。先ほど言った色んなところが色んなものを手がけているところが表面化されてないところがあるので、そういったものを上手く、こういったものの中にも取り入れてやっていくとっと良いものが出来るんじゃないかなという風に思いました。

【草平会長】

はい、個別の障がい者の支援についての正しい情報でしたが、まだまだこの、災害時の支えあいというのは、緒についたばかりで、全てのことを完璧にやるにはまだまだもの凄いハードルが高いものですが、動き出したという中で、色んな課題があるので、障がい者の方の支援というのでひとつ新しい動きがありますよというところでした。その他、御意見等ございますでしょうか。はい、どうぞ、斉藤委員さん。

【斉藤委員】

すみません、いきいきサロンの方に話が戻るわけでございますけども。私も白石地区では、平成16年に白石・宮野・二島というところで、第一次の福祉活動計画を作りました。以来もう十年以上経過してるわけでございますけども、その第一次福祉活動計画と、第二次福祉活動計画に渡ってですね、いきいきサロンをどうやって増やしていこうかということテーマに活動いたしました。その中で、第三としては、理事会の中にいきいきサロン交流委員会というのを作りまして、当時4つしかなかったいきいきサロンを年にひとつずつ増やしていこうということで、取り組みました。結果、現在高齢者のいきいきサロンは14、子どもたちのいわゆる子育てサロン1つということですね、15のサロンが現在稼働しております。そうして、このサロンに対しましては、開設当初は市社協からの助成金もありますが、年数が経ちますと無くなります。従いまして、白石地区社協としては、当初5万円の各サロンへの助成金を出していたんですけど、ちょっと財政が厳しくなりました、現在では各サロンに4万円ということで助成金を出してそれぞれ活動をして頂いております。で、今残されたところ1地区ほどですね、どうしてもいきいきサロンが出来ないというところがございます。これの最大の原因は場所が無いということで、町内あげて探してもらっているんですけど、どうあっても場所がないんですと。それから、担い手の問題ですが十年以上も

③基本目標3「利用しやすい福祉サービスに仕組みづくり」

経ちますと、当初実際に自分たちがお世話をしていたメンバーが今では逆にお世話をされる方になっているということでございまして。新しいメンバーとしてはですね、民生委員或いは福祉委員といったものが、どんどん新しいものが出来てきておる。当時、民生委員であり、福祉委員であったメンバーが現在ではいきいきサロンに来てお世話を受けておるふうになっています。そういった意味では、非常に円滑に回転しておるといいますか、継続が出来取るのもそうした原因があるんじゃないかという風に思っております。以上です。

【草平会長】

どうもありがとうございました。白石地区での推進の現状と課題というところをご照会頂きました。はい、では時間もございまして、次のほうに入りたいと思います。それでは、第3のところでございます。基本目標3利用しやすい福祉サービスの仕組みづくりというところについて、説明してもらいます。お願いします。

【事務局】

(社協)

では、15ページです。活動目標1総合相談体制の充実とアウトリーチの推進のところでは、一番下の三番目です。福祉問題の早期発見の取り組みということで、市社協の26年度の実施状況です。先ほども御意見沢山頂きましたけど、阿知須地区において地域見守り支えあい強化事業の中で、民生委員、児童委員や福祉委員、医療関係者や生活関連事業者との事業者との情報交換会を実施したり、それからその下の市が実施する山口市高齢者そっと見守り活動の周知を図ったということになっております。それから27年度の実施予定でございます。小地域見守り活動グルーピング研修会において初期相談に関する研修会を開催するということと、民生委員、児童委員の部会において相談機関の窓口についての研修会を行うということ。それからここにはちょっと明記しておりませんが、今年度県社協の事業でございますね、福祉の輪づくり運動、小地区福祉活動強化事業というところで、地区指定ということで、大殿地区さんを今推薦をしているところでございます。内容的には、地域での孤立者を無くすというようなことが主な内容ではございますが、地区を指定をしてその辺についての支援をしていきたいという風に考えております。

(市)

市では活動目標①につきまして、地域包括センター等に相談があった場合は、アウトリーチを積極的に行い、また、障がい者基幹相談支援センターを設置し総合的な相談を実施したところでございます。27年度も引き続き実施するとともに、支援も行ってまいります。あと、前回の21年度から25年度までの計画のところ、そこでの中に市の取り組みという部分に「利用者に対する定期的なアンケート(満足度)調査」という項目があったわけですが、今回の計画からアンケートの実施については無くなっておるんですが、

引き続き26年度も実施いたしましたところをごさいます、毎回資料をお配りしておると思うんですが。資料の2になります。ちょっと見ていただきたいと思います。利用者さんの方から受けた回答の数としましては少ないところではあるのですが、昨年度までは、その年度の数値をグラフに表してお示しされていたようでごさいます、この度21年度から26年度、6年間グラフ化させて頂きました。ちょっと白黒で見にくい部分もあるんですけども、それを目を通してみると概ね利用される方からはよい印象をもっていただけではないかという風に拝察しておるところでごさいます。

(社協)

では、16ページです。活動目標2ケアマネジメントの充実のところでごさいます。①初期相談対応の充実強化のところ、市社協の26年度の実施状況でごさいます。最初の黒ポツの民生委員児童委員ブロック別研修において、初期相談に関する窓口等周知したということです。それから27年度の実施予定でごさいます、相談員や福祉委員関係者の初期相談に関する研修会を開催するという、この民生委員さんのまたブロック別研修会、それから福祉委員の定例会とかも含めて初期相談に対応するような傾聴であるとか、コミュニケーションであるとか、そういう風なことを取り入れていただくように助言をしていきたいと思っております。それからその下の、民生委員、福祉委員さん、それから福祉関係者の情報交換会等も考えていけたらと思っております。

(市)

市の方では民生委員、児童委員、福祉員の方を対象とした研修会において、地域包括支援センターの役割等について説明を行ったり、定例会へ参加し、情報交換を行ったりいたしました。27年度もこういったところへ出向いて参りまして情報交換等してまいりたいと考えております。

(社協)

では、続いて17ページです。活動目標3福祉サービスの利用支援のところでごさいます。②地域福祉権利擁護事業及び法人成年後見事業の充実のところでごさいます。市社協の26年度の実施状況でごさいます、2ポツ目の法人成年後見事業開始し、二件を受任したということです。認知症の方のお年寄り、高齢者の方なんですが一応二名の受任をしてサービスを行っております。生活費を持参したり、金銭管理とかそういうふうなことが内容となっております。それから、権利擁護事業の件数なんですが、ちょっとここには書いておりませんが、26年度の地域福祉権利擁護事業の契約件数が32件でごさいました。地域福祉権利擁護事業の契約件数が32件でごさいます、27年3月末、26年度末で現在131名の利用者がごさいます。131名の方と契約をして地域福祉権利擁護事業でサービス提供をしているということになっております。27年度の実施予定のところでごさいます。最初のところですけど、地域福祉権利擁護事業の利用者への現状の利用状況について、実態を把握するという、先ほど、26年度末で131名の方が権利擁護事業を利用されているというふうに言いましたけど、このうちの

約四割程度の方がですね、成年後見への移行が必要というか、そのまま移行できるのではないかという方というのが、選考員の見方でございます。では、法人成年後見のことも踏まえてですね、地域福祉権利擁護事業の利用者についての実態をもう少し把握をしてみたいと思うところでございます。それから、次の18ページのところでございます。④の移動困難な方への支援のところでございますが、26年度の実施状況のところ、少し訂正でございます。数字の訂正と、ちょっと文書の訂正をございまして、下の黒ポツのところ、小郡支部、阿知須支部限定で移送サービス270件を行った小郡支部が12件、阿知須支部が148件、阿東支部が10件と書いてありますが、小郡支部、阿知須支部、阿東支部を限定でということで、阿東支部を付け加えて欲しいというところと、件数が合計で278件でございました。で、その内訳が、小郡支部が24件、阿知須支部が244件でございました。すみません、訂正をお願いしたいと思います。従って一番右端の26年度実績も270件で書いてありますが、278件にすみません、訂正をお願いできればと思います。で、27年度も移送サービスについては引き続き推進をしようと思うわけでございますが、26年度実績で278件といいました。で、その左側の計画の目標値等のところで、現状のところ422件という数字、これは24年度末の実績だったんですがそのときに比べてかなり実績が落ちているわけでございます。この理由としましては、利用者の方で頻りに利用されておられた方が施設入所等のために利用されなくなったということで、頻度の高い利用者が使用されなくなったということが主な原因でございます。ちょっとその下の⑤番の住民同士の助け合い活動の推進のところ、最初の黒ポツの26年度の実施状況ですけど、有償在宅福祉サービス事業推進のところでございます。現会員状況でございまして、協力会員が65名、利用会員が63名、賛助会員が6名5団体。26年度の延べ活動件数が1676件でございました。協力会員さんの的にもですね、目標でありましたら、26年度末には97名程度増やしたいという希望はあったんですが、なかなかですね、業界の確保が難しいということと、サービスニーズと協力会員の提供時間なんか結びつかないということもありまして、それと周知が十分出来てないということもありまして、協力会員の方もまだまだ不足しているという状況でございます。

(市)

市では、地域包括支援センター活動において各種情報を提供したり、機会あるごとに制度の周知を図ったりいたしました。27年度も同様でございます。また、高齢・障がい福祉課におきましては、福祉タクシー券及びおでかけサポートタクシー券を交付したり、福祉有償移送サービス実施いたしました。27年度も引き続き行います。

(社協)

では、19ページです。活動目標4総合支援体制の構築と地域課題解決の仕組みづくりのところ、②のところでございます。福祉課題等の把握と福祉関係機関団体との連携強化のところでございます。26年度の市社協の実

施状況でございますが、生活支援コーディネーターの受託に向けて市と協議を行いました。で、27年度の実施予定でございます。生活支援コーディネーターを市から受託し、地域の福祉課題等の把握と福祉関係者、関係機関との連携強化を努めるということにしております。27年度は北部支所に1名、南部支所に1名、合計2名体制で生活支援コーディネーターを受託しまして、推進するようにしております。この生活支援コーディネーターの業務内容につきましては、もちろん市と協議をしながらではございますが、モデル地区の指定、それからサロンに参加される高齢者へのアンケート調査、サポートボランティア養成講座等を行うようにしております。地域包括ケアシステムを構築するということで、遅くとも平成29年の4月からの実施に向けて対応しないといけないわけではございますが、市の方と一緒にですね、生活支援コーディネーター、北部支所南部支所兼務ではございますが、合計2名おりますので、色々業務の方を取り組んでいきたいと思っております。

(市)

市では、生活困窮者自立支援法の施行に先立ち、国のモデル事業を活用致しまして、「パーソナルサポートやまぐち」を窓口として、生活困窮者の自立促進支援事業を実施いたしました。27年度も引き続き必要な取り組みを行って参る予定です。大変駆け足で申し訳ございませんが、説明は以上でございます。

【草平会長】

はい、御説明いただきましたが、この件につきまして御質問、御意見ございませんでしょうか。澤村委員どうぞ。

【澤村委員】

コミュニティソーシャルワーカーの設置検討、基本的にはコミュニティソーシャルワーカーを設置するっていう強い意見が、設置検討ぐらいになったような結果的にですね、なったような気がしております。それで、コミュニティソーシャルワーカーをどういうふうに山口市内に一体何人配置していくのかなと非常に興味ごとであった私は思っております。そうした中に、この度新しく生活支援コーディネーターというのが、今は2名ということですが、基本的にその2名で足りる話ではなくて、各地区に置いていくということになっておって、2名の方々は北部・南部の方の総合的なコーディネーターの役で、もっと地区毎で生活支援コーディネーターを置くっていうのが目的としてあると私は思っております。で、よくそのここで、今それぞれ単語が違うようにして書いてあるので非常に気にするんですけど、生活支援コーディネーターとコミュニティソーシャルワーカー普通であれば何が違うのか、ていうところが議論になるんですが、そうではなくて、何が同じ機能役割なのかていうことを、一緒に考えて頂いて、それで、その配置をですね、しっかり考えていくということがこれから非常に大事ではないかなと思っております。それで、こんなこと言っているいいかどうか分かりませんが、基本的にはやっぱりその、介護保険財源の中で今の介護擁護や生活支援のところを、充実

していかなきゃいけませんので、そうした介護保険財源を使った地域福祉の展開ということを、しっかり考えていくということが今求められているのではないかと考えてますんで、是非ここはバラバラに考えるのではなく、機能を極力同じにしていただいて政策的には、あるいは制度的には生活支援コーディネーターだけ、社協から考えれば、コミュニティソーシャルワーカーなんだというふうな。同じなんだという位置づけですね、しっかりこう体制を作っていくっていうことが、地区においてのですね、地域福祉をしっかり活性化していくことになっていくのではないかとこのように思っております。

【草平会長】

はい、何が同じかというところ。地域生活支援コーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー)でも良いんじゃないかという。社協から見たですね。行政からの委託なりはそういうわけにはいかないでしょうが、その部分、まあ、違う部分を探せばいくつもあるかとは思いますが。同じ部分と、まあ、具体的にどこが同じかというあたりのところもあるかと思いますが。この件について、長谷川委員何かありますか。

【長谷川委員】

この部会の方で検討をして、結局設置までは多分行き着かないので、さっき澤村委員が言ったみたいに検討するということでその時点から多分念頭にあったのは生活支援コーディネーターの話だったので、ひとつは、この時点から介護保険の方ではこっちの方向に向かうということが大体見えていた時点で、コミュニティソーシャルワーカーはあくまでも、役職ていうか、機能をどう考えているかということが、一番重要なことなので、社協職員は全てコミュニティソーシャルワーカーであるていうのは、大前提でありますので、社協職員が全てコミュニティソーシャルワーカーであって、どの機能をどういう職員配置でやっていくかということが大事で、今澤村委員が言われたことは 本当に大事なところで、生活の支援コーディネーターがですね、北部南部の中心で全体を統括するという形ですよ。あとは、地区社協毎に担当制を今市社協のほうにひいている訳ですから、担当制の職員にどういう役割を持たせるのか、また、いわゆる、課、係の今後なり、社協の強化発展計画とも絡んでくる部分にはなると思うんですけど、地域福祉計画だけではもちろん出来ないところで、社協の強化発展計画とも合わせていわゆる折角今回は社協の方が北部、南部分けたっていうひとつのやり方を示したわけですから、北部南部分けたときに本当であれば、一体的にそれを考えていくっていうことで、出来ていけば一番良かったところではあるんですけども、先に北部南部が分かれてやってしまった部分もありますので、その後じゃあ、北部南部分かれたところで今度は旧町村ですよ、旧町村それから地区社協の部分でのエリア分けの部分の社協の職員の配置と、それからそれに伴ってくる機能の部分の部分をどう考えていくかっていうのがひとつのきっかけとなるのが、この生活支援コーディネーターであるんだろうというところで、介護保険財源にやる部分になりますので、もちろん違う部分もあるんですけど

も、資源の開発ですとか、地域企画会議を開催するっていうのは、そもそもやっぱり社協の職務の部分ではあった部分を、いわゆる同じ所になりますので、その辺は分けて考えるんじゃないかと、本当に一体的に考えていただかないと、介護保険財源のこっこのコーディネーターは別で、介護保険でやるっていうことになってしまうと、社協が受ける意味がありませんので社協が受ける意味っていうのは、そこを一体的に考えていくっていうことが、社協に委託があるところのひとつの意味だと思いますので、その辺はしっかり考えてやって頂ければ良いなというふうに思っております。

【草平会長】

意見を言っていただきましたけど、介護保険の財源であれば高齢者のみに対象とした地域ケアシステムなのか、あるいは地域福祉でいえば属性をこだわらない高齢障がい、児童、その他色々な課題に対して、包括的なケアシステムを含むということですので、違いもそこにはありますが、働きかけの機能は全く同じものだというふうに考えます。そのところをどういう風に整理するかというところを、新たにですね、これは老人福祉計画介護保険事業計画との関連の中で、ここの部分が出てくるかと思えます。いずれにしても、地域包括ケアシステムを作り、その中に住民の力をいかに活かしていくかというところが課題でございますので、ここは極めて地域福祉的な課題でございますので、これらをどう結びつけるかというのが今後の課題だということと、ひとつそのところは戦略的に考えていただきたいということがあるかと思えます。その他、何かございませんでしょうか。

【高野委員】

基本目標の1、2、3で今日、お話を伺いまして。取り合えず基本目標3なんですけれども、全体としてこの一年間で市社協、市のそれぞれの取り組みはですね、大変しっかりとした形で展開しているということはよく分かりました。で、今日伺いながらですね、ひとつ全体を通した感想ではないんですけれども、思ったのは先ほど堅田委員さんが、QRコードを使って、自分の情報をどこまで開示できるかというのを、コントロールできるような仕組みがあるというお話がありました。で、林委員さんの方ではちょっとその縦割りのようなことがあって、なかなか地域の中で色々な動きやっていくっていうのは難しいようなところがあったというような話も伺ったんですが、何ていうんでしょうね。この地域福祉活動計画、地域福祉計画というのが、市民の皆さんにどう伝わっていくのか。林委員さんの話でいくと、満足度がどうなっているのかというようなことを、考えて行くっていうときに、広報の役割って言うのはやっぱり物凄く大きいと思ってまして、地域福祉のことを皆さんがやっぱり自分たちのことだと思って、何かあったら大変なんで、普段から自分のことを人に伝えたりとか、分かってもらいたいというような気持ちになって、皆で地域福祉を支えていくというふうなことに繋がっていくというのが、やっぱり基本だと思います。で、今後で御説明があるのかもしれませんが、資料の3で、市社協の広報を1年分見せていただいています。で、これ、私だけの感想なのかもしりませんけれども、市が、市社協も合併

してまもなく十年になるというんで、さらに今回体制を少し変えられて、一番上の新しい形になってますけども、北部と南部というふうな形に分けられていくと、で、「こちら社協です」一本の中に全市の色々な情報をこうずっと盛り込んでいくという形で今こられているんですけども、それぞれの地元の方からするとですね、何か自分たちの地域のことがちょっと、小さく扱いになってしまったみたいな声も聞かないわけではありません。はたしてこれから紙で、広報することがどこまで伝わるのかっていうようなことも含めて、ちょっとあのこの地域福祉計画活動計画をいかに住民の方に伝えていって理解してもらおうというようなベースの部分について少し考えることも必要なのかなというちょっと全体の雰囲気感想なんですけれども、ちょっと思いましたのでお話をさせていただきました。

【草平会長】

御意見ありがとうございます。どういう風に広報するかということで、御意見頂きました。その他、御意見等ございましたら。どうぞ、林委員さん。

【林委員】

この小郡地区の福祉活動計画というところですけど、山口市の場合は山口市の地域福祉計画と活動計画といっしょ、一体なわけですけど、やはり小郡がこういうふうに作っているように、どちらかといったら、トップダウン方式ではなく、ボトムアップ方式で住民が自分の地域をどのようにしないといけないかと、いうことを地域福祉活動計画いわゆる、市の活動計画を見ながら立てていくのが一番理想じゃないかと思います。その中で、やはり地区社協の役割が非常に大きいものがあると思いますので、やはりもうちょっと地区社協のですね、強化育成についてですねもう少し、力を入れていただけたらと思っております。なかなか私の住んでいるところでは、地区社協の動きというのが見えませんので、私もどこまで見てるか分かりませんですけど、やはりこういう風に地域のこういう活動計画を作るうえでは、地区社協というのは非常に大きな役割を持っておりますので、地区社協の育成と、どちらかと言いましたらこういう福祉活動計画は住民からのボトムアップというものを希望いたしますのでよろしく願いいたします。

【草平会長】

はい、地区社協活動への期待の御意見でした。その他ございませんでしょうか。全体を通してでよろしゅうございますが、何か御意見いただきましたら。清水委員さん、感想だけでもよろしゅうございますけど、いかがでしょう。

【清水委員】

色々聞いてきたんですが、今までの考え方でですね、新しく地域づくりが出来ました。地域づくり協議会とそれから、福祉協議会その両方がまだ全然マッチしていない状況にあるんですね。というのは、私の方、大殿の地域なんですけど、もちろん一番地域づくりと連合会とですね、マッチしている

ということになったんですけれども、それにしろ今度地区社協とコミュニティ協議会と一緒に活動がきちんできていくかという、まだまだ序の口でいいですかね。その中にここ何年か経ってますけれども、地区社協と地域づくり協議会がもう少し何かマッチング出来る方法をですね、基本的に考えるべきじゃないかなと今日は感じました。以上です。

【草平会長】

どうも、御意見ありがとうございます。大体時刻が回ってきましたが、その他、御意見等ございませんでしょうか。全体を通して、よろしゅうございますでしょうか。この地域福祉計画の評価という形で今日は皆様方から色々な意見をいただきました。ひとつ印象に残りますのが、地域福祉というのは色々な活動の担い手がいて、それぞれが活動していることをこの中で見て、市民の生活がより安全に豊かになるってところが確信できるような評価・満足が出来たどうかという辺りでございます。色んなところの関係機関が私たちの生活の中で機能しているわけですが、他人の手柄を自分の手柄にするんじゃなくて、他人の手柄を他人の手柄として私たちにとってプラスになっているというような形で色々な関係者が私たちの生活を支えてくれるところが見えてくれば、そしてそれらを意図的に計画の中に組み込んでいく、それを評価していくというのがこの営みじゃないかなと思います。私たちの生活というのは、色んなところで支えられているところを感じるところでございます。そこが地域福祉計画の中に生活全般の課題が出ているかどうかということを表しているかどうかというところを、評価できたのではないかなと思います。それでは、議事のその他というところでございます。事務局から何かあればよろしくお願ひしたいと思ひます。

【事務局】

事務局は特にありません。

【草平会長】

それでは、以上を持ちまして本日の委員会を終わりたいと思ひます。色々御協力ありがとうございました。市の方におきましても、社協におきましても色々皆さんの御意見を真摯に受け止めていただいて、厳しいこともあったかと思ひますが非常に感心いただきました。どうもありがとうございました。

【事務局】

草平会長さん、高野副会長さん、どうもありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして江藤部長が御挨拶を申し上げます。

<江藤部長挨拶>

長時間にわたりまして大変色々なご意見頂きましたことありがとうございます。頂きました意見につきましてはしっかりと市社協さんあるいは市の内部で取り入れましてですね、可能なものにつきましては、積極的に取

(4)その他

	<p>り組んで参りたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>【事務局】</p> <p>以上をもちまして、評価委員会を終了させていただきます。</p> <p>大変お忙しい中、誠にありがとうございました。</p> <p>お気をつけてお帰りください。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 席次表 次第等 会議次第 配布資料一覧 評価委員名簿、事務局名簿 山口市地域福祉計画評価委員会設置要綱 山口市地域福祉活動計画評価委員会設置要綱 資料1 平成26年度実施状況及び平成27年度実施予定 資料2 福祉総合相談窓口利用者アンケート結果 資料3 市社会福祉協議会広報紙（こちら社協です） 資料4 これまでの評価委員会における主な意見等
<p>問い合わせ先</p>	<p>健康福祉部 社会課 総務担当</p> <p>(TEL) 083-934-2790 (FAX) 083-934-5087</p> <p>(Eメール) shakai@city.yamaguchi.lg.jp</p>